

別紙様式 4

平成 22 年度サバティカル研究者 (喜多 加実代) 研究成果報告書

平成 22 年 10 月 1 日

福岡教育大学長 殿

所属講座 社会科教育
職名 教授
氏名 喜多 加実代

受入大学・学部等名

首都大学東京・人文科学研究科 社会行動学専攻

受入教員の職・氏名

教授・ 江原 由美子

研究期間

平成 22 年 4 月 1 日 ~ 平成 22 年 9 月 30 日

研究題目

言説分析の方法的検討と事例研究

研究成果概要 (800 字程度又は別紙添付)

社会学において言語使用に注目する方法の 1 つとしての言説分析について、理論的考察を行うと共に、それをを用いた分析を行った。事例として、女性の就業経歴に関する語りと、科研費研究である精神障害者の触法行為の問題化を取り上げた。社会学理論及びジェンダー研究を専門とする江原教授に指導を仰いだ。

女性の就業経歴については、従来、初職就業前の継続の意志などが注目されてきたが、女性自身が経歴を語る中では、就業前の意志の如何より偶発的に生じる様々な条件の中で、その都度継続や退職への意志が形成されていく面を捉えた。就業継続者も、自らの就業(継続)を自明のものとしてできず、条件が整っているなかで成立する危ういものとして捉えている。これから就職する女子学生たちにも、こうした偶有性や脆弱性が、ある程度意識されているようであった。これについては論文化し、今年度共著の 1 章として出版の予定である。

また、精神障害者の触法行為の問題化については、1970 年代の刑法改正と保安処分についての言説を取り上げ検討した。1970 年代は保安処分に対する異論が高まった時期であるが、この時期の異論の特徴と、保安処分支持の言説が主流であった 1960 年代の違いを考察した。これについては、考察の一部を紀要に掲載する予定である。